



# ダイネツ商事株式会社

## 『環境活動レポート』

28期(対象期間;2011/10月~2012/9月)



エコアクション21  
認証・登録番号0000455

エコアクション21認証登録番号 「0000455」

取得年月日 2005年8月15日

更新年月日 2011年2月15日

当社は、2010年11月、堺市環境モデル地区(堺テクノパーク)に製販一体統合移転し、心機一転飛躍へのスタートを切りました。

本レポートでは、新工場移転後2年目の環境活動実績を取り纏めましたのでご高覧下さい。

作成; 2013年 1月 5日

# 28期「環境活動レポート」

(対象期間;2011/10月~2012/9月)



## ダイネツ商事株式会社

### 《ご挨拶》

ダイネツ商事株式会社美原工場(※)は、ダイネツグループの一員として昭和60年の創立以来、品質・納期・サービスそれぞれの要求が満足できる体制確立の為人・物への最大限の投資を行うと共に、「地球環境に優しい」をモットーに環境活動を展開しお客様に信頼される企業を目指して参りました。

平成17年1月よりは、日常業務と一体化された環境活動を目指し、環境省指導によるEMS【エコアクション21】に取組み、近年はその活動も社員全員に定着して来ましたが2010年11月、製販統合した堺浜新工場への移転を機に、更なるレベルアップを目指し、新たな取組課題へも積極的に取組んで参りました。

本レポートでは、新工場移転後の2年目の活動実績を報告致しますが、まだまだ取組不足の点多々あり今後は、これらの課題克服を着実に実行に移すと同時に、《堺テクノパーク》の環境リーダーとして環境モデル都市「堺」実現に向け、地域貢献活動にも今迄以上に力を入れたいと思っています。

以下に、「環境活動レポート」を取り纏めましたので、ご高覧の上ご指導、ご指摘いただければ幸甚で御座います。

2013年 1月 5日

ダイネツ商事株式会社

専務取締役 山原 圭三

### 《目次》

I.	環境方針	P-(1)
II.	組織の概要	P-(2)
III.	本社・堺浜工場 概略図	P-(3)
IV.	環境経営システムの実施体制	P-(4)
V.	環境活動目標とその実績及びその評価	P-(5)(6)(7)(8)
VI.	二酸化炭素(CO2)排出量の推移	P-(9)
VII.	活動風景 その1~その2	P-(10)(11)
VIII.	環境関連法規制の遵守状況	P-(12)
IX.	代表者による全体の評価と見直し	P-(12)

# 環境方針

## 《 基本理念 》

私たちは、自社の行う事業活動の全域で、二酸化炭素削減に向けた“地球環境保全へのたゆまぬ配慮”に努め、品質・価格・納期と同様環境面でも、『お客様』から信頼される企業を目指します。  
この実現の為に、次の行動指針を定めて取り組みます。

## 《 行動指針 》

《基本理念》を実現の為、下記「環境目標」を設定し、効率的・継続的な取組を図ります。

(記)

1. 当社に係る「環境関連法規制」や当社が約束した事を遵守します。
2. 環境負荷実績と環境取組への意識の改善・向上に努めます。
3. 省資源、省エネルギーの推進を図ります。
4. 省エネ・新エネ商品の拡販を通じて社会の環境負荷低減を図ります。
5. 新エネルギー(太陽光発電・LED照明)の有効活用を図ります。
6. 廃棄物の発生抑制と再使用・リサイクル化に積極的に取組ます。
7. グリーン購入の推進を図ります。
8. 地域の環境関連活動に積極的に参加します。
9. 環境方針の周知徹底を含め、環境学習を通じた社員全員の環境意識の向上を図ります。

2005年1月5日 制定  
2012年4月1日 改定  
ダイネツ商事株式会社  
専務取締役

山 原 圭 三

## II. 組織の概要

### 1. 事業者名及び代表者名

ダイネツ商事株式会社

専務取締役

山原 圭三

### 2. 所在地

〒590-0908 大阪府堺市堺区匠町17-7

### 3. 環境管理責任者及び担当者連絡先

取締役  
環境管理責任者; 総務部長  
担当者; 環境事務局

木田 和匡

山本 元一

電話 072-227-1431

FAX 072-228-5791

### 4. 事業の内容

..... 住宅部材を主体とした金属製品の販売及び加工

### 5. 事業年度

..... 当年10月～翌年9月

### 6. 認証・登録の対象組織

登録組織名; **ダイネツ商事株式会社**

活動; .....住宅部材を主体とした金属製品の販売及び加工

### 7. 事業の規模

活動項目	対象 期間 単位	※25期	※26期	27期	28期
		08/10月 ~09/9月	09/10月 ~10/9月	10/10月 ~11/9月	11/10月 ~12/9月
主要製品販売量	t	57,255	61,336	67,561	71,015
売上高 (含 消費税)	百万円	6,966	6,523	7,539	7,776
従業員 (期首 10月1日の人員)	人	47	47	58	58
建築面積 (26期迄は美原工場分)	m <sup>2</sup>	5,100	5,100	5,600	5,600

※ 25期～26期のEA21活動は、美原工場のみですが、上記数値は全社ベースに置き換えています。

### 8. 主な環境負荷実績 ( ⇒ 25期～26期は「美原工場のみ」の参考実績)

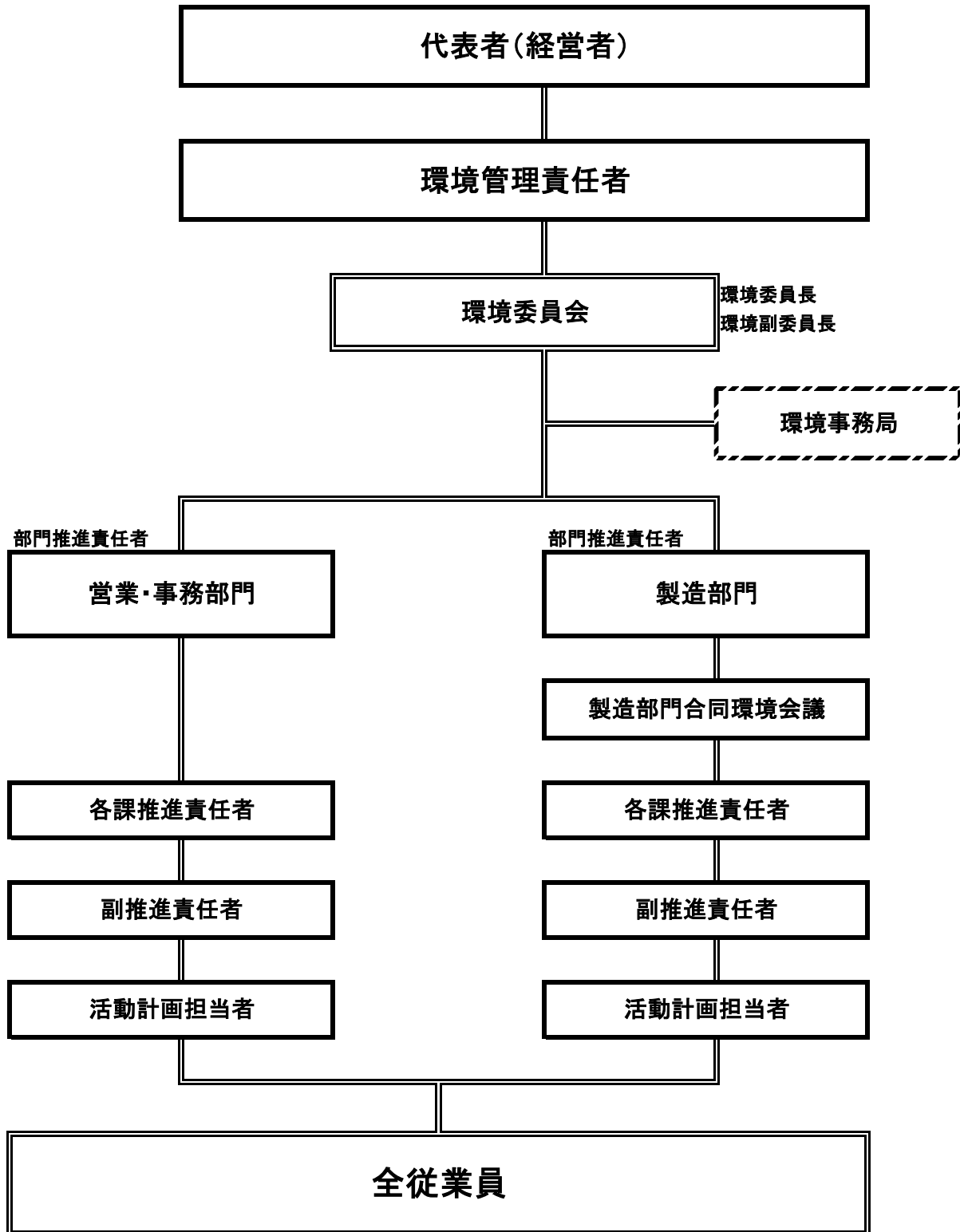
		⇒ 参考実績			
二酸化炭素排出量	t-CO <sub>2</sub>	151	170	177	166
一般廃棄物	t	2.0	2.0	2.2	2.5
産業廃棄物 ※	t	477	593	604	689
排水量	m <sup>3</sup>	314	329	797	661

上記※印 ⇒ 大半(≒95%)有価物としての金属スクラップであり、循環資源である。  
二酸化炭素排出係数=0.378(kg-CO<sub>2</sub>/kWh)



#### IV. 環境経営システムの実施体制

##### I. 組織図



# V. 環境活動目標とその実績及び取組評価 .....1/4

## 1. 28期目標・実績総括表及び29期以降目標

今期28期(2011/10月~2012/9月)実績は、前期27期の堺浜工場の活動実績を基準として、比較しています。  
 29期以降は、移転後安定した28期の実績(=新基準年度)をベースに、目標設定しています。

環境目標項目	対象組織	単位	基準年度		環境活動レポート対象年度		次期以降の目標			
			27期		28期		29期	30期	31期	
			実績		基準年度比 (左記27期実績)		新基準年度比 (=28期実績)			
			実績		目標	実績	目標			
<b>I. 省エネルギーの推進</b>										
I-1	電力使用量の削減	製造部門	[原単位] 電力量/ 売上金額	213.9		原単位の 5%削減	基準年度比 ⇒ 24.2%の削減	原単位の 3%削減	原単位の 4%削減	原単位の 5%削減
				原単位=203.2		原単位=162.1				
		営業 事務 部門	[原単位] 電力量/ 労働時間	1Q	原単位 =245.2	原単位の 5%削減	基準年度比 ⇒ 13.6%の削減	原単位の 3%削減	原単位の 4%削減	原単位の 5%削減
				3Q	原単位 =233.0	原単位=211.9				
2Q	原単位 =297.6	原単位の 5%削減	基準年度比 ⇒ 10.8%の削減							
4Q	原単位 =282.7	原単位=265.4								
I-2	燃料使用量の削減	製造部門	10Tトラック 原単位 (km/L)	原単位=3.28 (特異事情考慮し修正)	原単位の 1%向上	基準年度比 ⇒ 2.4%の悪化	原単位の 1%向上	原単位の 1.5%向上	原単位の 2%向上	
		原単位=3.31	原単位=3.20							
営業 事務 部門	営業車 原単位 (km/L)	原単位=12.32	原単位の 1.5%向上	基準年度比 ⇒ 18.9%の向上	原単位の 1%向上	原単位の 1.5%向上	原単位の 2%向上			
原単位=12.51	⇒12.51	原単位=14.65								
<b>II. 廃棄物排出量の削減</b>										
II-1	スクラップ発生量の削減	製造部門	原単位 SC量/ 売上金額	原単位=471.5	原単位の 2%削減	基準年度比 ⇒ 13.6%の削減	原単位の 1%削減	原単位の 1.5%削減	原単位の 2%削減	
原単位=462.1	原単位=407.4									
II-2	廃棄物排出量の削減	製造部門	排出量 kg/月	原単位=99.7	廃棄物排出量の 5%削減	基準年度比 ⇒ 0.7%の悪化	廃棄物 排出量の 3%削減	廃棄物 排出量の 4%削減	廃棄物 排出量の 4%削減	
		目標値=94.7	実績=100.4							
営業 事務 部門	排出量 kg/月	原単位=132.2	廃棄物排出量の 5%削減	基準年度比 ⇒ 7.5%の向上	実績=122.3					
目標値=125.6	実績=122.3									
<b>III. 資源の有効活用</b>										
III-1	水使用量の削減	全社共通	一人使用量 (L) 水総使用量/ 全社員数	1,181	水使用量の 1%削減	基準年度比 ⇒ 19.8%の向上	水使用量の 1%削減	水使用量の 1.5%削減	水使用量の 2%削減	
目標値=1157	実績=947									
<b>IV. グリーン購入</b>										
IV-1	省エネ・新エネ商品の扱い量アップ	営業 事務 部門	売上金額 (千円/月)	1,435	対象売上金額の 5%向上	基準年度比 ⇒ 25.4%の悪化	「副資材購入におけるCO2削減への取組」 に項目変更 ⇒ 月次に「環境活動計画書」でトレースする。 (「29期環境活動レポート」で報告)			
目標値=1507	実績=1071									
<b>V. 環境意識の向上</b>		製造部門	総合評価	取組実績コメントは P-(8)記載 取組内容詳細は 「各部門 環境活動計画書」に記載		評価 A	取組内容詳細は 「各部門 環境活動計画書」に記載			
		営業 事務 部門	総合評価			評価 A				

# V. 環境活動目標とその実績及び取組評価 ……2/4

## 2. 以下「個別項目詳細」 (補足説明)

下記 **評価** 欄の A・B・C表示の評価判断基準は、概ね⇒の通り。

⇒ A; 目標達成, B; ほぼ達成, C; 未達成数値・手段要見直し

[何れも数値・活動両面での総合判断] (詳しい「評価基準」は別途内規有り)

### 電力使用量の削減

今期(28期)は、新工場移転の2年目にもなり、導入した屋根全面の《太陽光発電パネル》が着実に省エネ効果を発揮しています。この数字の改善が、従来からの省エネ活動をより活発化させると言う相乗効果を発揮し、太陽光発電の効果を除いた実使用電力量も大幅な改善実績を挙げています。

#### 《屋根全面太陽光発電パネル》



#### 計画 ⇒ 使用電力量原単位の5%削減

「太陽光発電計測システム」

部門	単位	前期実績		今期目標
製造部門	原単位 (生産金額比) kWh/百万円	213.9		203.2
営業事務部門	原単位 (稼働日数比) kWh/H	1Q 3Q	245.2	233
		2Q 4Q	297.6	282.7
(参考) 全社	電力量 (kWh)/月	30,620		(29, 519)



#### 成果(実績・評価)

部門	単位	今期実績		改善率	評価
製造部門	原単位 (生産金額比) kWh/百万円	162.1		24.2%	A
営業事務部門	原単位 (稼働日数比) kWh/H	1Q 3Q	211.9	13.6%	A
		2Q 4Q	265.4	10.8%	A
(参考) 全社	電力量 (kWh)/月	26,939		12.0%	—

(注) 活動評価上、電力使用実績は、太陽光発電効果を除外した数値でまとめている。

#### 料金効果 ……この数値には、太陽光発電効果(売電分)も含めている。

期(年度)	支払い料金 (千円)/年	売電料金 (千円)/年	年間差益 (千円)/年
27期実績(1月~9月)	2,954	3,574	620
28期実績(年間通期)	3,788	4,173	385

成果補足 ……⇒

- 上記 成果(実績・評価)の数値でご覧の様に、太陽光発電効果を除外した実電力ベースで製造・営業共大幅な電力原単位の削減実績を挙げた。これは両部門の目標達成手段に対する徹底した活動の成果と高く評価したい。
- 一方、料金効果は、27期に太陽光発電量が少ない10月~12月が含まれていない為見かけは、効果が少ないが、1月~9月に限定すると、720千円となり、今年度も順調に(支払料金) < (売電料金)となり、投資金額の償却に寄与している。



# V. 環境活動目標とその実績及び取組評価 ……3/4

## 燃料使用量の削減

下記数値は、製造;10tトラックの事例(軽油)、営業;営業車5台の事例(ガソリン)で表示している。  
(トラックは、他2台も同様 月次でトレースしている。)

計画 ⇒ 燃料使用量原単位(燃費)の向上(部門別下記向上率設定)

	目標値	前期実績	今期目標
営業事務部門 (普通車)	(原単位) 1.5%向上	12.32	12.51
製造部門 (事例10tトラック)	(原単位) 1%向上	3.28	3.31 ← 10t車の事例

成果(実績・評価)

	原単位	今期実績	向上率	評価
営業事務部門 (普通車)	走行距離(km) /軽油使用量(L)	14.65	18.9%	A
製造部門 (事例10tトラック)	走行距離(km) /軽油使用量(L)	3.20	-2.4%	A

目標達成手段の実施が顕著な為

成果補足 ⇒ …… ⇒ トラックの燃費は、走行内容(ルート、積合せ、頻度等)で変動要因が大きい、悪化した場合も数値だけに拘らず、月次環境会議やQ毎の「環境委員会」でトレース・分析している。  
営業部門については、ハイブリッド車の導入と目標達成手段の徹底により、大きな効果が出ている。

## スクラップ発生量の削減

製造部門の根幹である歩留の向上と表裏一体であり、収益向上にも直結するも重要項目である認識の下、鋭意取り組む。

計画 ⇒ 原単位の2%削減

	前期実績	今期目標
原単位 SC量/売上金額 ⇒⇒⇒⇒	471.5	462.1

成果(実績・評価)

	今期実績	削減率	評価
原単位 SC量/売上金額 ⇒⇒⇒⇒	407.4	13.6%	A

成果補足 ⇒ …… ⇒ 生産量ピーク時の繁忙期にも、目標達成達成手段の励行と、歩留向上の意識を持って取り組んだ事もあり、大幅な削減が図れた。29期は、原点に戻り現場からの新たな「目標達成手段」の提案を期待したい。

## 廃棄物排出量の削減

外部要因に依る変動は否めないが、省資源・リサイクルの意識で日常活動に取り組む

計画 ⇒ 廃棄物排出量の5%削減

	前期実績	今期目標
製造部門 営業事務部門 廃棄物排出量 (kg/月)	99.7 132.2	94.7 125.6

成果(実績・評価)

	今期実績	削減率	評価
製造部門 営業事務部門 廃棄物排出量 (kg/月)	100.4 122.3	-0.7% 7.5%	B A

成果補足 ⇒ …… ⇒ 製造部門;今期は削減が図れなかったが、期中で提起のあった「分別方法」の変更を検証し29期では、よりいっそうき細かい分析によって成果が上がると期待している。  
営業部門;期の前半で 廃棄紙の数量が増えた為、全員に呼びかけ裏紙活用の徹底を図った結果、目標の削減値をクリアした。

# V. 環境活動目標とその実績及び取組評価 .....4/4

## 水使用量の削減

新工場2年目の今期も、本来の節水意識の向上に加え、トイレ・散水等の自動システム面の改善に鋭意取り組んだ。

計画 ⇒ 前期使用量の 1%削減

	前期実績	今期目標
1人当たり使用量 (L/月) ⇒⇒⇒⇒	1,181	1,157

成果(実績・評価)

	今期実績	削減率	評価
1人当たり使用量 (L/月) ⇒⇒⇒⇒	947	19.8%	A

成果補足

.....⇒ 特に、植木への自動散水システムの調整(効果の検証を含め)で大幅な使用量の削減を図った。来期は、より一層基本の節水意識の向上を図り、その方策に向けてあらゆる角度から検討したい。

## 省エネ・新エネ商品扱い量のアップ ( ← グリーン購入)

グリーン購入の取組として、今期は省エネ・新エネ商品の売上高の向上を目指した。

計画 ⇒ 前期実績売上高の5%アップ

	前期実績	今期目標
対象商品売上高 (千円) ⇒⇒⇒⇒	1,435	1,507

成果(実績・評価)

	今期実績	向上率	評価
対象商品売上高 (千円) ⇒⇒⇒⇒	1,071	-25.4%	B

成果補足

.....⇒ 需要の落込み大きく、数値的には大幅減となったが、後半目標とした客先への提案件数で評価を判断した。29期は、本来のグリーン購入に絞って目標設定する。

## 環境意識の向上

各部門での環境会議、周辺清掃等を通じ、環境意識の向上を目指した。

定例活動に関しては、定着もし、維持継続されているが、新しいテーマ・活動への取組が乏しい。

	各部門活動実績コメント	評価
製造部門 ⇒⇒⇒⇒	日常業務に忙殺され定例会議開催が限度 新人教育の強化と推進員主体の 社外教育を是非共実施したい。	A
営業事務部門 ⇒⇒⇒⇒	環境学習会議が 1回/Qは開催され 環境意識の向上は徐々に図れていると 思うが、課題としている社外セミナーへの 参加が未実施で次期繰り越し事項となった。	B

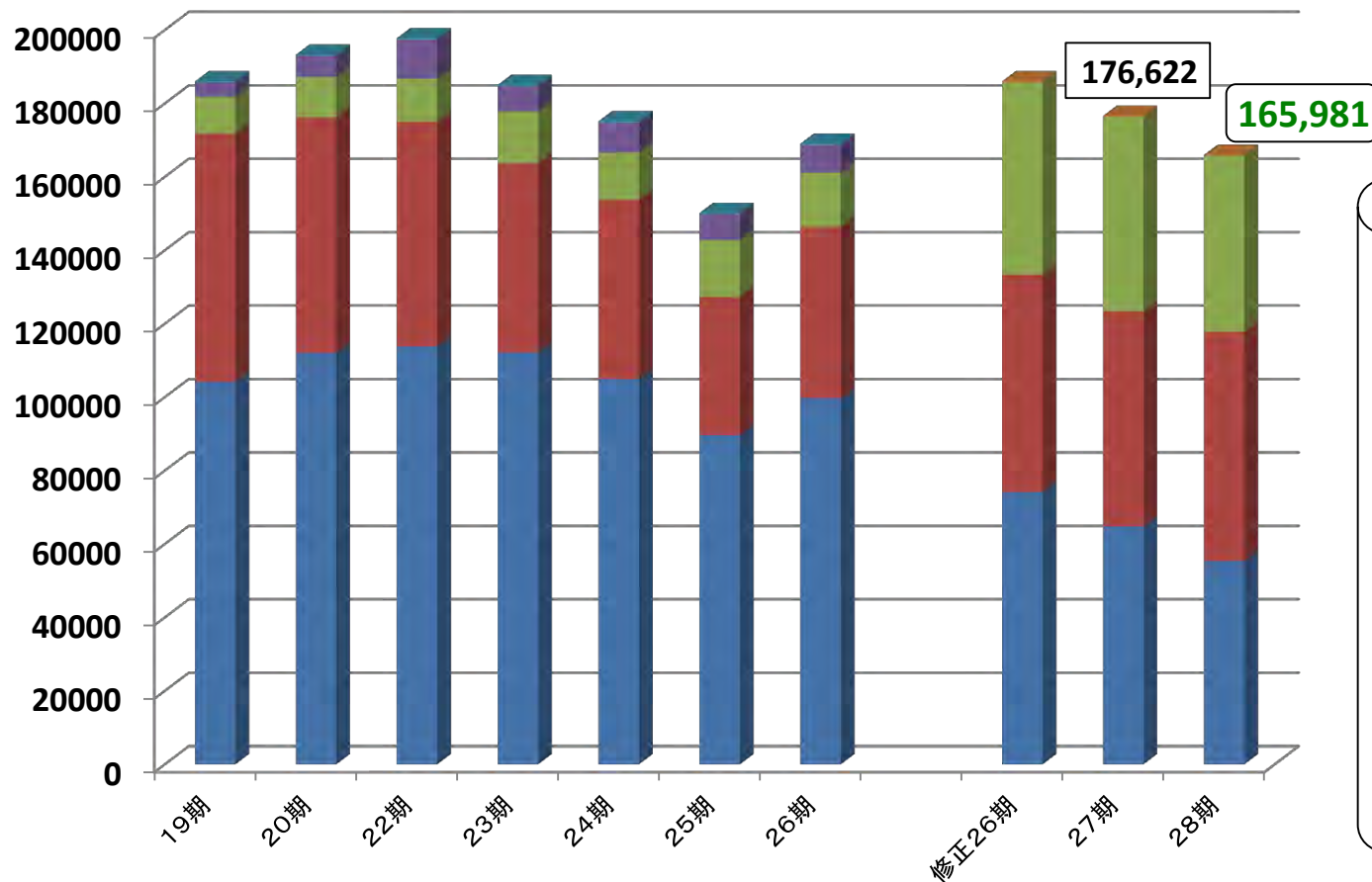


弊社は、十数年前より、ダイネツグループ全体に浸透しているGK活動(業務管理活動)で培われた業務改善への目と「社内改善提案制度」(表彰制度)で年間100件に及ぶ実績がありこれらがベースになって日常業務が展開されており、正にエコアクション21活動はその延長で自然に身につけていると思う。「継続は宝なり」を地で行く取組と自負している。

## 28期 二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量の推移

単位: kg/CO<sub>2</sub>

(注) 28期; H23/10 ~ H24/9



- 都市ガス
- ガス(LPG)
- 灯油
- ガソリン
- 軽油(トラック)
- 電力量

### 《補足説明》

堺浜工場(H27/1月~)の  
環境負荷面の特異点

1. 工場屋根全面太陽光パネル  
(使用電力量の減少)
2. 営業用乗用車を対象に加えた  
(ガソリン使用量の大幅増)
3. 会社規模拡大  
(敷地・設備・従業員数増等に  
依る環境負荷要因増)

移転後上記2・3の増加要因も  
あったが、地道な日常の活動も  
あって、移転2年目の反動もなく  
27期数値をさらに下回る削減が  
図れた。

## VII. 活動風景 その1

### ① 活動計画の職場徹底 ⇒ 現場掲示物（＝情報共有 & 達成手段の徹底）



### ② 「太陽光発電システム」

⇒ 玄関及び工場棟入口のパネル



### ③ 「LED蛍光灯間引き状況」

⇒ 並列を1本外したが、照度は基準値を満たしている。



### ④ 「ごみ分別活動状況」

⇒ 現場も事務所も分別徹底



### ⑤ 「トラックへのEA21マークの表示」

⇒ 社有トラック 3台に表示



### ⑥ 「営業車にハイブリッド車導入」

⇒ 燃費向上に一役！



### ⑦ 「現場も電気でもCO<sub>2</sub>削減」

⇒ フォークリフトの動力も転換！



## VII. 活動風景 その2

### ⑥「緊急事態対応 火災訓練」



### ⑧「朝礼・体操時に「環境方針」唱和 ⇒ 1日の始まりは、全員の唱和から



### ⑦「近隣清掃風景」

⇒ 1回/月は、外構・植え込み清掃



### ⑨「丹精込めた手作り花壇」

風にそよぐコスモスに仕事の疲れが癒されます！



### ⑩「環境委員会」及び「各課環境会議」



## Ⅷ. 環境関連法規制等の遵守状況 並びに違反、訴訟等の有無

### (1) 当社に適用となる主な環境関連法規

法規制等の名称	該当する活動	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産廃業者との契約締結、マニフェスト管理及び産業廃棄物管理票に関する報告書の提出	遵法
フロン回収・破壊法	フロン回収後の委託確認書と引取証明書の保存(当社 対象設備の廃棄等なし)	遵法
消防法 危険物の規制に関する政令	少量危険物貯蔵・取扱届出及び定期確認(当社は対象危険物の指定数量以下の為 政令適用外であるが、安全パトロールで自主管理)	遵法
(参考) 騒音規制法及び大阪府条例	当社居住地域は、「特定地域」に指定されておりH23年1月 移転以降 特定施設の届出及び規制基準の制約はなし。 (「労働基準監督署」には、設備一覧表を届出済)	—
(参考) 振動規制法及び大阪府条例	同上	—
(参考) 特定工場における公害防止組織の整備に関する法律	同上 但し、公害防止統括者、公害防止管理者は選任し自主管理している。	—

### (2) 環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

尚、関係当局よりの違反等の指摘は、過去5年間ありませんでした。  
 又同様、訴訟もありませんでした。

## Ⅸ. 代表者による全体の評価と見直し(=28期総括と29期に向けて)

「堺浜テクノパーク」に移転し約2年が経ちました。

27期環境レポートで報告の通り、前期(27期)は期の途中での移転、製販合体の活動環境の中で28期のベースとなる環境負荷の把握に努めながらの活動に苦慮しました。

又、前期環境レポート報告後に、今日でも、まだ沢山の方々が、避難や仮設での生活を強いられる東日本大震災および福島原子力発電所事故が発生し、エネルギー特に電力に対する信頼が一瞬にしてなくなり、当たり前のように使用していた電力が自由に使用できないという事実に直面しました。

その中で弊社は、移転に際しできるだけ環境にやさしい工場を合言葉に太陽光発電、LED照明、自動散水装置、平成16年からのEA21への取組みによる環境教育等により、無理なく節電にも取り組み、着実に環境にやさしい企業へと変貌したと思っています。

28期の計画では、特に電気、水の使用が大きな改善を挙げました。

勿論未達成な項目もありますが、目標設定が限界に近い状態の中では達成数値だけに捉われず、視点を変えた(達成手段項目の実施有無等)評価も取り入れた活動は良かったと思います。他にもハイブリット車の積極的な導入等、活動の中身がより進化した28期は全体を通じて内容のある活動であったと評価します。

上記28期総括を踏まえ、29期に於いては、エネルギーに対する今までの常識が根底から変革した現状に鑑み、これを果敢に経営に取り入れて行きたいと思っています。

その中で、省エネルギーの推進は勿論の事、既に製品化している太陽光架台の新規提案に力を入れ環境分野への積極的な取組、今期より必須となりましたグリーン購入の推進に加え従来以上に全従業員への環境教育を強化して、将来世代に負荷をかけない環境経営を推進する所存です。